

31:10 諸国の民よ。主のこゝばを聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。「イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る。」と。

31:11 主はヤコブを贖い、ヤコブより強い者の手から、これを買戻したからだ。

31:12 彼らは来て、シオンの丘で喜び歌い、穀物と新しいぶどう酒とオリーブ油と、羊の子、牛の子とに対する主の恵みに喜び輝く。彼らのたましいは潤った園のようになり、もう再び、しばむことはない。

31:13 そのとき、若い女は踊って楽しみ、若い男も年寄りも共に楽しむ。「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。

31:14 また祭司のたましいを髓で飽かせ、わたしの民は、わたしの恵みに満ち足りる。・・・主の御告げ。・・・」

31:15 主はこう仰せられる。「聞け。ラマで聞こえる。苦しみの嘆きと泣き声。ラケルがその子らのために泣いている。慰められることを拒んで。子らがなくなったので、その子らのために泣いている。」

31:16 主はこう仰せられる。「あなたの泣く声をとどめ、目の涙をとどめよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。・・・主の御告げ。・・・彼らは敵の国から帰って来る。

31:17 あなたの将来には望みがある。・・・主の御告げ。・・・あなたの子らは自分の国に帰って来る。

31:18 わたしは、エフライムが嘆いているのを確かに聞いた。『あなたが私を懲らしめられたので、くびきに慣れない子牛のように、

私は懲らしめを受けました。私を帰らせてください。そうすれば、帰ります。主よ。あなたは私の神だからです。

31:19 私は、そむいたあとで、悔い、悟って後、ももを打ちました。私は恥を見、はずかしめを受けました。私の若いころのそしりを負っているからです。』と。

31:20 エフライムは、わたしの大事な子なのだろうか。それとも、喜びの子なのだろうか。わたしは彼のことを語るたびに、いつも必ず彼のことを思い出す。それゆえ、わたしのはらわたは彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまずにはいられない。・・・主の御告げ。・・・

「諸国の民よ。」とあります。主の回復は単に心理的なことではなく、世界にも知らしめられるような明確なできごとです。私たちにもたらしめてくださる回復も、また同じように明確であることを知しましょう。周囲の人々にも分かるような画期的なことを主はしてくださるでしょう。

「ラケルがその子らのために泣いている。」というのは、イスラエルの預言であると同時に、イエス様に関するできごとでもあります。ヘロデ王がメシヤを殺そうとして、2歳以下の男子をみな殺させ出来事です。しかしその預言にもまた、「あなたの労苦には報いがある」と、希望が約束されています。私たちが信仰によって回復するときには、イエス様のみわざに与ることができるという希望を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

